

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4074400286
法人名	有限会社 オプティマムケア
事業所名	グループホーム朝茶
所在地	〒811-2311 糟屋郡粕屋町大字長者原639-1 (電話) 092-939-3454

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H20年 10月 16日
評価確定日	20年 12月 15日

【情報提供票より】 (平成20年 8月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 7日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	11 人
常勤	6人
非常勤	5人
常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造耐火建築 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(180,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	73 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック、福岡青州会病院、蓮田歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JRの最寄り駅から徒歩で訪問できる距離に位置し、周辺には畑が残る静かな住宅街の中の一角に事業所がある。協力病院の一つであるクリニックが隣接しており、24時間サポートを受けられるので、医療面での安心感がある。2階建ての1階部分が事業所、2階がデイサービスになっている。「地域との絆を深めて・・・」と理念にあるように、利用者と地域の交流を図るだけでなく、地域住民に対して、認知症の理解を深めていただく活動として公民館で「脳の健康教室」開催を検討・計画中である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	全職員への「自己評価及び外部評価」「権利擁護事業」等の周知や研修等、前回評価の改善計画シートを作成し、管理者・職員はミーティング等で話し合いながら改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価項目に対する意見をミーティング等で行い、更なる改善点を話し合いながら、共有化・意識化を図った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヵ月に1回、地域住民、民生委員、家族代表等の参加を得て実施している。利用者の現状・事業所活動を報告し、委員からの意見・要望・質問等を貰っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の要望、意見、苦情等は家族の来訪時を中心に聞き取りや家族会の際に伺っている。苦情については第三者窓口の紹介をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内のボランティア協会からボランティアの訪問を受けたり、町内の夏祭りや敬老会等の行事に参加している。外出傾向のある利用者の見守りを依頼したり、不定期に運営推進会議に消防団員やボランティア協会等からの参加もある。また地域住民への「脳の健康教室」開催を公民館で行う計画を、運営推進会議等で検討・計画中である。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と一緒に作った事業所独自の理念として「地域との絆を深めて、安心安全、人格尊重と思いやりのある介護」があり、地域密着の視点が含まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼、ミーティング時に、理念から具体的なケアについて意見の統一を図り、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、敬老会、夏祭り等の行事に参加して地域との交流に努め、町内ボランティア、幼稚園等の訪問、学生や中学校教員の体験実習等の受け入れも行っている。運営推進会議へ近隣住民へも参加を呼びかけており、不定期ではあるが参加を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目について職員からミーティング等で意見を聴取し、管理者、ホーム長、ケアマネジャーで自己評価票を作成している。前回評価の課題については、改善シートを作成し、内部研修を実施する等して管理者及び職員全員で改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や地域に向けた講座の開催等今後の活動計画及び外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するように努めている。外出傾向のある利用者の見守りを依頼する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内でのグループホームの在り方等、行政担当者や担当課以外の関連部署の担当者とも意見交換や相談等で日常的に連携を図っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修を受講した職員が、その資料を基に内部研修の中で全職員に周知を図っている。家族会で家族へパンフレットを渡し、制度の説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態等を報告し、また月一回の個人情報を書いた朝茶通信と行事等の写真、金銭管理表を郵送している。ホームページで毎月行事の様子を公開しており、季刊号として事業所だよりも発行して家族へ郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に声かけを行ったり、年2回の食事会を兼ねた家族会で、意見・要望をいただく機会を設けている。第三者相談窓口については事務所窓口連絡先を掲示し、説明を行っている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員全員とのコミュニケーション手段の一つとして、1ヶ月間の職員自身の振り返り等、表の活用をしており、その中で職員からの意見・要望・不満等を聞いている。やむを得ない職員の離職に際しては、引き継ぎ期間を十分にとり、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>運営者・管理者は人権教育の重要性を認識し、全職員に対して利用者に対する人権の尊重を重んじ、月1回のミーティングやその時々話をしていく。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>交替ではあるが外部研修に参加する機会が全職員にあり、研修内容については全職員で共有できるようにミーティングで報告する仕組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協会に加入し、職員はブロック別研修会等に参加し、他事務所への見学等の交流を図っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学、自宅訪問等を行い、馴染みの関係を築くよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の味付け・配膳・後片付け、洗濯物干し・たたみ、縫物等利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、支援している。また、意思疎通が困難な利用者には、生活歴・家族の話・利用者の様子から情報を得て利用者本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見を集約し、家族の意見・要望等を反映しながら、より状況に即した利用者の個別具体的な介護計画を作成している。家族が確認した署名、押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	それぞれの介護計画を基にした個別支援項目チェック表を日々の支援で活用し、月毎に支援計画の見直しを行っている。しかし、家族が介護計画を承認した署名・押印は1年に1回である。	○	介護計画への家族の承認の署名・押印は、変更等が無い場合でも確認の意味からも6ヶ月に1回は貰うよう努めてほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、利用者を見舞いながら本人・家族・医療機関と連携を図り、早期退院に向けて取り組んでいる。本人や家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や事業所の協力医からの24時間体制の受診・訪問診療を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の意向を大切にしながら、家族・かかりつけ医と話し合いを行って合意をはかり、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては内部研修を行い、職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら、その日その時の気持ちを尊重して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者もできることを手伝いながら職員が食事の準備や片付けをし、利用者の好みにそったメニューを提供している。全介助の利用者が数名いることから、利用者と一緒に食事は摂らず見守りと介助をしているが、食事を楽しむ雰囲気作りに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>特に時間設定は設けておらず、利用者の希望・状態により柔軟に対応している。入浴拒否に対しては臨機応変に声かけのタイミング・対応者を代える等して支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者のできることや得意なことを把握し、豆の皮むき・茶碗洗い・米洗い・台拭きや雑巾縫い等、楽しみごとを含めて一人ひとり支援している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の状況や希望、天候等に配慮して、概ね毎日の散歩、月に1回ほどの買物、季節ごとのドライブ等、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室や玄関の施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、ミラー等を活用して見守りや付き添いを行っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを整備している。年2回避難訓練を実施し、運営推進会議時に区長を通して地域住民への協力を呼びかけている。また、非常食や飲料水、備品等を準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は利用者の嗜好を考慮し、作成している。また、定期的に協力病院の栄養士に、栄養バランスやカロリー等の専門的なアドバイスやチェックを受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は利用者作成の貼り絵や季節の花を飾る等して、家庭的な雰囲気に配慮している。また、利用者にとって不快にならないよう、テレビの音量等も配慮している。食堂は大きな窓に面し、ベランダ・庭・菜園に続いて明るい。自然光が強いときはカーテン等で調整を行っている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の馴染みの小物や家具を持ち込み、家族の写真等を飾っている。その人らしさを尊重し、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>		

※ は、重点項目。